

子どもの力  
はすごいん  
だ！

利用されていない田畑山林での子育て支援活動

ソダチの森のあそびの日  
&  
たんぼぼうお手伝い体験の日

神奈川県横浜市青葉区寺家町 子どものワークショップ

たんぼぼう  
お手伝い体験  
の日の活動場所

ソダチの森の  
あそびの日の  
活動場所

どんなと  
ころでやっ  
てるの？



### 水車の畑

子どもが花を育てて、寺家の景観  
づくりをしています。  
春は菜の花。夏はひまわり。

### 四季の家

こちらの研修室をお借りして年中活動を  
しています。室内でワークショップを  
しています。やさしい職員の方々に子  
ども達も安心して活動をしています。

活動の環境

横浜市青葉区寺家ふるさと村

たんぼぼう



ふるさと  
の森



ソダチの森

寺家ふるさと  
の森子どもおもしろ  
マップ 2002年作成  
子どもがみつけたおすす  
すめポイント20ガイド  
つき

子どものワークショップ

多くの親子が自然体験の機会を得ると同時に、  
利用されていない田畑山林の活用と保全活動をしています。

どんな人たちがやっ  
てるの？

活動の形態

## 体験の場



親子体験

誰でもOK！  
体験を希望する親子

当日  
サポート

子どものワークショップの会員  
(親子やお父さん、お母さんで)

- ・ 寺家のソダチの森のあそびの日
  - ・ たんぼぼうお手伝い体験の日
- 誰でも楽しめる毎月一回の日

受付  
調整

日常の  
管理

- ・ 子どものワークショップの事務局
- ・ ボランティア有志

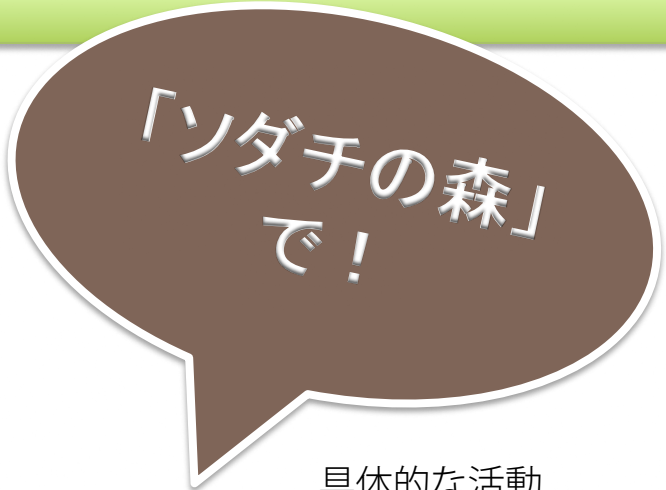
● この支援活動をしている人たちは、子どものワークショップの会員の子どもと大人です。  
子どものワークショップとは1993年に寺家の自然と風土を活かして子どもの育成を行う目的で個人ではじめた活動の名称です。会員の子どもは、毎月1～4回の自然や芸術体験を柱に地域に働きかける活動をしている。会員の会費により運営。現在約120名(親子で)の会員がいます。



ソダチの森



ソダチの森



## ソダチの森のあそびの日

開催 毎月1回(日曜)10:00~15:00

### 参加人数

- 2021年子ども321名大人312名633名
- 2020年子ども303名大人267名計570名
- 2019年子ども444名大人341名計785名

### 当日のサポーター支援

- 毎回親子3組ほど

基本は自由あそび。一応、体験メニューも用意している。

- みつける~の(自信と発見)
- グラグラ本道(達成感とシール)
- クラフトコーナー(空の下で創作)
- 親子のワークショップ(講師伝承)

具体的な活動

ソダチの森は2013年2月に所有者より借り受け、会員の子ども、大人によって環境づくりを始める。2014年4月から、誰でも楽しめるように開放日を開き、それが「ソダチの森のあそびの日」となって継続している。



お手伝い体験の受付



水辺の環境づくり



生き物調査



## たんぼぼうお手伝い体験の日

開催 毎月1回(日曜)10:00~12:00

### 体験参加人数

- 2021年179名
- 2020年259名

### 当日のサポーター支援

- 親子2~3組ほど

### 主な体験内容

- ビオトープの保全づくり
- 水源探索(初めての人対象)
- 生き物調査
- 生き物図書館(生き物を貸し出す。諸条件あり。27名の子どもに貸し出し)
- 認定子どもサポーター(10回以上参加した子どもがなれる。現在1名)

具体的な活動

たんぼぼうは2017年に借り受けて、ソダチの森と同じく会員のみみんなで生きもの調査、ビオトープづくりを進め、2018年11月より一般開放日を試行して、現在実施しているお手伝いの日へつなげる。

# 寺家の「たんぼぼう」の軌跡を例として ～ 過程と課題 ～

子どもの  
体験と地域自然  
資源をつなげるた  
めに！

## 過程

10年ほど前はたんぼだったが  
木も生えて2mのヨシの群生地帯となる。

子どもや保護者と話し合い開拓を決意する。

放棄された田の持ち主より借りる。

生き物が増えるようにと川や池をつくる。

「こんな楽しいところはみんなにも！」  
開放日を実施。その経緯で体験の日が生まれる。

子どもも、大人にとっても掛け替えのない体験の場  
となる。

## 課題

田畑山林放棄地の増加

山林農地の維持管理が困難に。

いろいろな地域に  
あるといいね！

子どもが自然に関わる機会と環境の減少

子どものために働きかける人たちが必要

所有者との信頼関係

体験プログラムの実践

持続する力と仕組み

現在、会員の有志の方がボランティアで草刈りなど日常的に手入れを行なっています。



当初の姿



小川をつくる



池のデザイン



開放日の受付